

2022 年度

筑波大学

大学発新産業創出プログラム (START) 大学推進型
(筑波大学ベンチャー起業支援事業「つばさ」)

[旧称： SCORE 大学推進型]

研究開発課題

(大学発ベンチャー起業を目指すチーム)

募集要項

2021 年 12 月

国際産学連携本部

2022年度 筑波大学START大学推進型（「つばさ」事業）における研究開発課題

募集要項

大学発新産業創出プログラム（START）大学推進型[旧称:SCORE大学推進型]は、大学の優れた技術シーズを基にした成長ポテンシャルの高い大学発ベンチャーの創出を促進することを目的としています。筑波大学では、2022年度から筑波大学ベンチャー起業支援事業「つばさ」（以下、「つばさ」事業）と命名し推進していきます。本プログラムは2020年度に科学技術振興機構（JST）から採択されて運営を開始しており、大学発ベンチャーの起業やSTARTプロジェクト支援型への申請に繋がられる優れた技術シーズを有する研究者・大学院生チームに対して起業活動支援を行ないません。大学発ベンチャーの創出を促進していくため、2022年度の研究開発課題を以下の要領で募集いたします。

（つばさ事業（旧称：SCORE）について：<https://www.sanrenhonbu.tsukuba.ac.jp/score/>）

（JST STARTについて：<https://www.jst.go.jp/start/index.html>）

1 支援の対象とする研究開発課題

下記3点をすべて満たすチームの研究開発課題を対象とする。

- (1) 筑波大学の教員あるいは大学院生がチームの研究代表者（責任者）となり、チームの研究開発課題が起業を前提としていること。国立研究開発法人研究機関の研究者が構成員として参画するチームの研究開発課題も応募可能である。
- (2) 筑波大学の研究成果に基づいた明確な差別化技術が含まれている研究開発課題であること（特許を取得もしくは計画中であること、または優位性のある秘匿技術・ノウハウがあること）。
- (3) 大学発ベンチャーの起業意志があるチームの研究開発課題であり、本プログラム終了後にSTARTプロジェクト支援型（2022年4月からSTARTプロジェクト推進型起業実証支援に名称変更予定）への申請もしくはベンチャー創業を進めることを前提とすること（従って基礎研究や起業までに相当の期間を要するものは対象外）。

2 支援について

- (1) 研究開発課題の事業化段階へのステップアップ支援
各チームにプロフェッショナルメンターを配置し、概念実証（Proof of Concept : POC）や知的財産創出などの事業化に必要なスキルの支援を行う。
- (2) 資金支援
原則として、1チームあたり一千万円を上限として資金の支援を行う。
（用途は、試作品作成、人件費（本研究開発課題のために雇用する研究者等）およびビジネスモデルのブラッシュアップや実検データ等の整備を進めるための経費に限る。詳細は、別添の補足説明資料を参照のこと）。

3 支援期間

採択日から2023年3月31日まで

4 研究開発課題の採択数

6件の研究開発課題を採択する。そのうち大学院生が研究代表者となっているチームの研究開発課題の採択は1件までとする。

5 応募および選考について

(1) 応募方法

所定の申請書（つばさ事業様式1）を下記の国際産学連携本部のホームページからダウンロードし、その書式に従って記載した申請書を電子媒体で下記の国際産学連携本部つばさ事業担当宛に提出すること。研究代表者が大学院生の場合は、指導教員の承認を得たうえで申請し、審査の結果採択された場合は別紙：つばさ事業様式3の確認書を提出すること。

国際産学連携本部ホームページ

URL: <https://www.sanrenhonbu.tsukuba.ac.jp/socre2022/>

- ・ 申請書提出期限： 2022年4月4日（月）17時
- ・ 提出先：国際産学連携本部 つばさ事業担当 大澤
E-mail: tsubasa-sanren@un.tsukuba.ac.jp

(2) 選考方法

第一次審査：書類審査

第二次審査：面接審査（第一次審査合格者を対象）

「面談審査」

- ・ 発表：プレゼンテーション10分、質疑10分
- ・ 場所：春日キャンパス高細精医療イノベーション棟（オンラインの可能性あり）
- ・ 日程：2022年4月15日（金）（場所、時間等詳細は後日、書類審査通過者に連絡する）

「選考の観点」

- (1) オリジナリティ（知財や圧倒的技術力など差別化できるものになっているか）
- (2) ビジネスモデルの市場性（事業に軸足をおき市場展開が可能な内容になっているか）
- (3) 起業マインド（社会課題の解決に取り組む強い意志をもっているか）

6 その他

採択された研究開発課題のチームは、速やかに研究開発計画書（別紙：つばさ事業様式4）を作成してJSTと契約を締結するとともに、採択後のスケジュールに沿って知財検討会、ワークショップ、Demo Day参加を含む起業活動、活動成果の報告等を行うことが義務付けられる。

「採択後のスケジュール」と「研究開発の成果の報告等」については、別添の補足説明資料を参照のこと。

7 問い合わせ先

国際産学連携本部 つばさ事業担当 大澤

E-mail: tsubasa-sanren@un.tsukuba.ac.jp Tel: 内線 81487

補足説明資料

1 支援する資金の使途について

大学発ベンチャーの起業の準備のための活動に必要な経費に支出が可能。

想定しているビジネスモデルの検証を進めるために必要となる裏付けデータの取得や、試作品の製作、想定顧客へのヒアリング等を進めるための旅費、専門家からのアドバイスを獲得するための謝金、などに支出が可能（以下を参照）。ただし、学内ルールに従って運用すること。

- a. 物品費：試作品の製作やデータ取得などに必要となる設備・備品・消耗品等を購入するための経費
- b. 旅費：研究代表者および計画書記載の研究参加者等が本プログラム実行のために必要となる旅費
- c. 人件費・謝金：起業検討に直接必要な専門的知識の提供を受けるための支出、本研究開発課題のために雇用する研究者等の人件費等
- d. その他：起業活動を実施するための必要となる上記以外の経費

使途については別添申請書の“7 本研究開発課題の推進に必要な経費”に記載している例や注意を参考にすること。不明な点は、国際産学連携本部に相談すること。

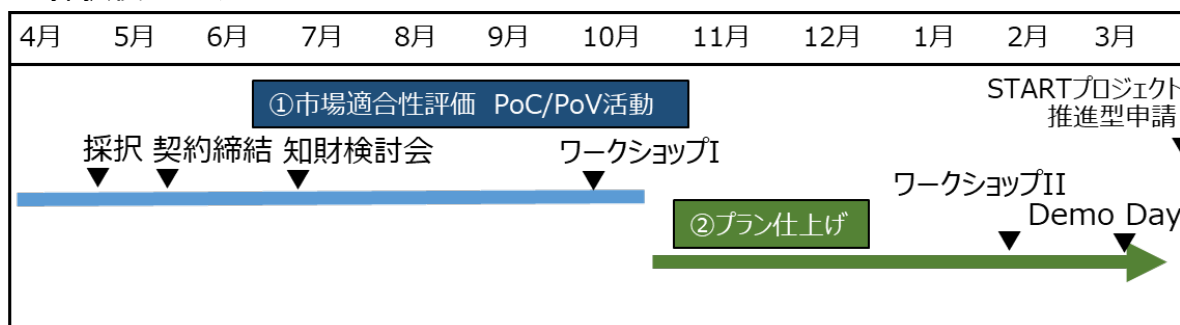
2 研究開発の成果の報告等

- (1) 各チームの研究代表者は、想定顧客ヒアリングを含めた試作評価やビジネスモデルの検証をメンターの助言を得ながら実施し、その結果を国際産学連携本部が主催するワークショップにおいて発表すること。
- (2) 各チームの研究代表者は、国際産学連携本部が主催する知財検討会に参加し、特許等の知的財産の強化を推進すること。
- (3) Demo Day*に参加して発表するものとし、研究代表者は次年度初めに、その発表会における発表資料、討論内容を含めた成果報告書を国際産学連携本部長あてに提出する。

*Demo Day：

起業ビジョンとともにビジネスプランをSTARTプロジェクト支援型の事業プロモーターやベンチャーキャピタリスト等にプレゼンテーションし、次の事業化ステージにつなげることを目指す発表会。

3 採択後のスケジュール



2022年度 つばさ事業 起業活動支援プログラム スケジュール

上図に示すスケジュールに従って大学発ベンチャーの起業に向けた活動を進める。すなわち、研究開発課題チームの活動はメンターの助言を得ながら進め、①市場適合性評価 POC/POV活動（試作品などを用いた市場ニーズの検証）と、②Demo Dayでの最終プレゼンテーションにむけたプラン仕上げの大きく分けて2つのフェーズから成る。

① 市場適合性評価POC活動

各チームは配置されたメンターの助言を得ながら、ビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品などの製作と評価、想定顧客へのヒアリング、WEBベースのプラットフォームを活用したグローバルなニーズ評価、などを進めて市場ニーズと起業シーズのマッチングを行い、ビジネスプランを構築する。

- ・計画策定(5月)：メンターマッチング、研究開発計画書（ビジネス、知財、経費、ゴール設定等）作成、契約締結を行う。
- ・知財検討会(6月予定)：知財戦略策定とアイデア創出により知財強化を実施する。
- ・ワークショップI (9月予定)：事業化に向けてのビジネスプランニングの発表を行う。

②プラン仕上げ(Demo Dayにむけて)

ワークショップIでの結果をうけて、メンターとともにビジネスプランの仕上げ、ワークショップII（2023年2月予定）、Demo Day（2023年3月予定）に向けた発表準備を行う。